

■米国：政府、自動車燃費規制を強化

米国の環境保護局（EPA）および全米高速道路交通安全委員会（NHTSA）は2010年4月1日、乗用車及び軽トラックを対象とした新しい燃費規制を定めた。同規制では、自動車メーカーに、新車販売における平均において、走行時の二酸化炭素（CO₂）排出量を2012年から2016年まで毎年約5%ずつ改善することを求めている。2016年時点では、CO₂排出量は250g/マイル（約156g/km）、燃料消費率換算では35.5マイル/ガロン（約15km/l）になるとしている。同目標達成に向けては、2012年までに行った各種燃費向上策がクレジット制に基づき考慮されるとともに、プラグインハイブリッドを含む電気自動車等については、20万台まではCO₂排出量が0g/kmとして計算し（2012年に25,000万台以上の電気自動車等を販売したメーカーは上限台数を30万台）、20万台以上については、使用される電力の電源構成に基づく排出原単位を基準として、自動車からのCO₂排出量を算定するとしている。なお、同算定方法については、今後検討するとしている。